

県短生協と一緒に誕生し、一年に一度発行されてきた「どこでもドアのかぎ」も、第6号となりました。

卒業生の皆さん・・・

ご卒業おめでとうございます。短いおつきあいでしたが、生協があっけよかった、と思ってもらえるようでしたら、これほど嬉しいことはありません。これは生協からの最後のプレゼントになります。新しい世界の扉を開く鍵が見つかりますように。

新入学生のみなさん・・・

ご入学おめでとうございます。生協は、勉強や課外活動、お昼ご飯やおやつ、万に備えての共済など、さまざまな方面で学生生活をサポートしてくれるでしょう。そして、みなさんもどうか、その力で生協を支えてください。みんなで作り、みんなで守り、みんなで育ててゆく「私たちの」生協なのですから。

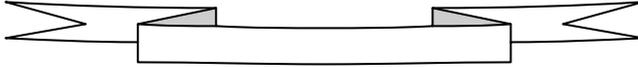
第6号には、過去の「どこでもドアのかぎ」に登場した本を読んだ先生の感想文も収録しました。「読んでみました」と題されているところです。みなさんの感想もぜひお寄せください。

県短生協 教職員委員会

## どこでもドアのかぎ 6

### ～目次～

英文学科	小谷 一明	3
生活福祉専攻	佐藤 拓也	4
幼児教育学科	石垣 健二	5
国際教養学科	波田野 節子	7
国際教養学科	石川 伊織	7
英文学科	福嶋 秩子	8
国際教養学科	柳町 裕子	9
国際教養学科	黒田 俊郎	12
国際教養学科	板垣 俊一	12
英文学科	石栗 彩子	13
生活科学専攻	坂口 淳	14
国際教養学科	水上 則子	15
食物栄養専攻	太田 優子	17
国際教養学科	～基本のほんを読む～	18
	「どこでもドアのかぎ6」アンケートのお願い	23



英文 小谷一明

## 恥辱

J. M. クッツエー  
早川書房

恥の上塗りという表現がありますが、この小説では恥が雪だるま式にふくれあがっていきます。しまいには悶死寸前の恥辱が描かれます。生きる上で食べ物と同様に必要なものが、恥をとおして理解できる。人間の性というものでしょうか。考えさせられました。舞台は南アフリカです。1999年度ブッカー賞受賞作品。

## 妾の半生涯

福田英子  
岩波文庫

「妾」はきらびやかなベンジャミン・フランクリンの自伝と、さかさまの自伝を書くことを決意します。墮落した半生を綴る自伝とはいえ、幸せの瞬間もちらほらと顔を出しホッとできます。面白いフィクションを読むような気にさせてくれるし、時代背景への関心も育んでくれます。100年ほど前の文章ですが、短い作品ですので挑戦してみてください。

# 祖母のくに

ノーマ・フィールド  
みすず書房

題名のエッセイを含み、大半は日本語で書かれています。作者はシカゴ大学の教授ですが、日本で育ちました。第二次世界大戦後の、作者と祖母との情交を描く繊細な言葉遣いが、エッセイに深い感銘を与えています。エッセイの他に、論文と新入生への挨拶文が載っており、こういう先生に教わりたいなあと思いました。



福祉 佐藤拓也

# ファストフードが世界を食いつくす

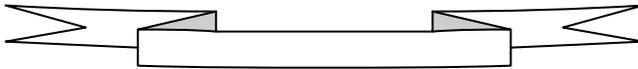
エリック・シュローサー 楡井浩一訳  
草思社

初めて訪れた旅先でも、ファストフードは、いつも通りの味とサービスで、私たちにどことなく安心感を与えてくれます。しかし、それも、ベルトコンベヤーを備えた“調理場”という名の工場で、若年者の単純な労働でマニュアル通りに大量に“組み立て”られるからこそなせる業。本書は、この産業が、労働者はもとより、牧場主や農場主、さらには消費者の健康をいかに顧みずに成長を続けてきたかを、鋭く描いています。

# 子どもの危機をどう見るか

尾木直樹  
岩波新書

少年による凶悪犯罪、「キレル」子どもたち、学級崩壊、いじめ、虐待、ひきこもり……。本書は、こうした子どもの危機を、単に、本人の心理や性格、家庭のしつけ、あるいは学校現場の問題としてではなく、社会的・構造的な問題として分析し、その原因と解決の方向を探っています。子どもの危機はこれで解決、という方法はもちろん簡単に見つかるはずありませんが、1つの考えるヒントを提供してくれています。



幼児教育 石垣健二

## 「わかる」ということの意味

佐伯胖  
岩波書店

以前「教育」ということにナニか非常に偽善的なモノを感じていたボク自身でしたが、この一冊によってその考えは払拭されたといっても過言ではありません。人間の「わかる」という営みを、とても平易に説明してくれています。勉強がたまらなくイヤだった人、学校教育にうんざりさせられた人は一読の価値があると思います！勉強って本当はそういうことじゃなかったんだ。だれもが「わかるう」としてゐる。「わかる」「学ぶ」ということに勇気もてる一冊です。

# 他力

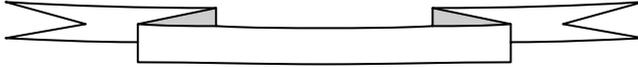
五木寛之  
講談社

何年か前、この本がきっかけで「他力」がちょっとしたブームにさえなりました。他力というとナニか「他人まかせ」の無責任なイメージが付きまといますが、著者は法然、親鸞、蓮如などの思想を易しくひもとき、他力こそが生きるうえで重要だとします。この場合の他力とは、もはや個人にはどうにもならない力、世の中の大きな流れ、現世を超越した力だともいえるかもしれません。困難に直面したとき、だれもがそうした力を感じ受容することが必要になってきます。「根性」「努力」「自力」をモットーに生きてきた人！人生に疲れていませんか？この本はきっとあなたの「癒し」となってくれるはずです。

## 新しい歴史教科書（市販本）

西尾幹二（代表）  
扶桑社

周知のとおり「中学歴史教科書問題」の渦中の書として有名です。歴史の問題よりも、ボクの第一印象は、中学のときって「こんなでっかい文字の本読んでたんだ！」です。実はボク自身、4章「近代日本の建設」、5章「世界大戦の時代と日本」を中心にしか読んでいません。歴史に疎いボクのすなおな感想としては「そんなに問題あるかなあ？」です。ただし、所々にあるコラム（たとえば、昭和天皇？国民とともに歩まれた生涯）などを読むと「やはりちょっと右よりかなあ」「韓国や中国の人にとってみたら、ちょっとなあ」という気もします。別の歴史教科書や批判本をめくらないとよくわかりませんが、いずれにしても！歴史認識が国民のイデオロギー注入に大きく加担するというのを、もう一度われわれ自身が再認識するべきなのでしょう。

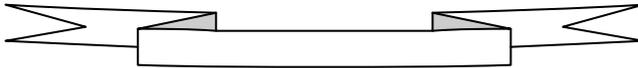


国際教養 波田野節子

## ソウルの風景 記憶と変貌

四方田犬彦  
岩波新書

朴正熙大統領が暗殺された年を韓国で過ごした著者が、20年ぶりに韓国で暮らした印象記です。著者は過去に訪れた場所を訪ね、現在と過去の風景を二重写しにしなが、背後に流れた時間の重みと変化の意味するものを考えます。著者が注意深く、しかしほどよく韓国と距離をとっていることに好感がもてました。



国際教養 石川伊織

## 紅一点論

斎藤美奈子  
ちくま文庫

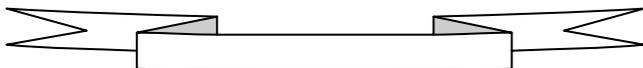
『ウルトラマン』の「科学特捜隊」にも『秘密戦隊ゴレンジャー』にも、他のたいていのマンガやアニメにも、なぜか一人だけ女性隊員がいたものです。よく調べると、男の子向けのマンガやアニメはどれも、チームを作って悪と戦うという内容。女の子向けは「魔法少女に変身!」という内容。『セーラームーン』あたりから戦う女の子も出てたけれど、『エヴァ』に至ってとうとう無茶苦茶、という分析です。面白いのは、宮崎駿の評価がとても低いところ。切通理作の『宮崎駿の 世界』(ちくま新書)が宮崎を絶賛しているのと対照的です。

# 教養としての まんが・アニメ

大塚英志 + ササキバラ・ゴウ

講談社現代新書

著者の二人は、漫画編集者とアニメ作家です。自分たちが「古典」だと思っていた過去のマンガやアニメの作品を今の漫画家・アニメ作家志望の若い人が知らないということに愕然として、これは古典を伝承する仕事をしなくてはならない、と書き始めたのがこの本。「マンガが描いてきたのは、子どもが大人になっていく成長の物語だった」という大塚さんの指摘は、『千と千尋の神隠し』のプログラムの中で「成長の物語を書きたくない」と言った宮崎駿監督の発言と比べて考える必要があるのでしょうか。宮崎さんは疲れたのかな？



英文 福嶋秩子

## 異文化理解

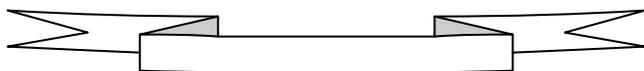
青木 保  
岩波新書

2001年9月11日以後世界は変わったと言われるが、それ以前から異文化間の衝突は激しさを増していた。テロ直前の7月に発刊されたこの本を今あらためて読み直すと、文化の重さと相互理解の重要性を実感する。

# 戦争責任とは何か 清算されなかったドイツの過去

木佐 芳男  
中公新書

歴史教科書をめぐる論議がかまびすしい中、この本を本屋でみつけ手にとった。戦争責任を明確にしたドイツ、しなかった日本という対比で語られることが多いが、実はドイツにも清算されていない過去があった。この議論を日本にとっての免罪符にはならないが、戦争というものを考える上で一読に値する本である。



国際教養 柳町裕子

## 歴史を考えるヒント

網野善彦  
新潮選書

「新しい歴史教科書」が議論的になったことはご存知ですね？あの教科書は、とても偏った歴史観に基づいて書かれています。もっと言ってしまうと、ある特定の人たちが、自分たちの偏った価値観を正当化するために書いた本です。しかし、歴史とは、本来は、過去の事実を丁寧に正しくたどることで、現代社会にあって私たちがとらわれがちなの偏見から逆に解放してくれるはずものだと私は思うのですが、みなさんはどう考えますか？

# ピーコ伝 / ピーコこと杉浦克昭

聞き手・糸井重里  
日経BP社

最近はファッションコメンテーターとして活躍しているピーコのインタビュースタイルで書かれた読みやすい自伝です。ところで、「おかま」という呼称は差別的です。いやな思いをする人たちがたくさんいるので、ゲイという呼称を使いましょう。ピーコはそういうこともすべてひきうけつつ、自ら「おかまよ～」とって「おすぎとピーコ」のコンビでデビューしました。「ゲイであることは嗜好ではなく生活だから」と言うピーコさんの、とくに恋愛観はちょっと読んでほしいかも・・・

## 悪童日記

アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳  
ハヤカワepi文庫

ねこぢる好き？好きな人はこの小説も読んでみてね。

# 魔女狩り

森島恒雄  
岩波新書

魔女狩りときくと、民衆的妄信に基づいたはるか昔の野蛮な慣習のように思いがちですが、実際、生きたまま火あぶりにするなどの残酷な方法での魔女狩りが数多く行われたのは、16～17世紀のヒューマニズムを掲げたルネサンスの時代で、また、それを行った主体は民衆というより、国王、貴族、文化人などの高い教養を身につけた階級の人たちでした。恐ろしい魔女狩りを生んだ社会構造は、現代社会と無縁のものではありません・・・。

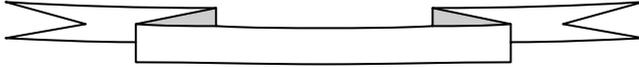
～読んでみました～

# ユダヤ人

J.P.サルトル  
岩波新書

実際はどれだけ多様な人が属しているのか考えないまま、私たちは、例えば「イスラムは～」とか「ロシアは～」とか簡単に語りがちです。世界情勢が得意でない人でも、「女というものは」とか「だから女は」という言い方をされると違和感を覚えたり、いやな思いをすることがあるでしょ？この本は「ユダヤ人は～」と語っている本ではありません。タイトルを裏切って『ユダヤ人は～』という言い方をする人たち（反ユダヤ主義者）について語っています。

ところで、この本はかつてこんな名推薦文によって紹介されました。「嫌な人の名前を『反ユダヤ主義者』の所に入れてみると、喧嘩せずにすみます・・・」いろいろな読み方ができる便利なく(?)本です。



国際教養 黒田俊郎

## 存在の耐えられない軽さ

ミラン・クンデラ 千野栄一訳  
集英社文庫

パリにいるとき、人はパリやフランスのことを考えない。考えるのは、人間についてであり、人間の歴史や文明、社会や文化についてである。1989年秋、あの激動の東欧の日々を、わたしはパリやエクスでクンデラの本とともに見つけていた。テレザとトマーシュの愛の物語を読者はどこから読まれてもかまわないと思う。たえまなく人が行き交う広場のように、どの入り口からはいろうとも、このひらかれたポリフォニックな小説は、読者に世界の不条理と人間の自由について優美かつ残酷に語りかけてくれるから。現代ヨーロッパへの最良の入門書のひとつとして推薦したい。

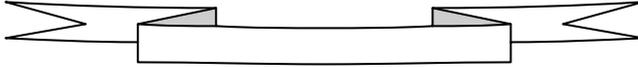


国際教養 板垣俊一

## 曠野の花 石光真清の手記

石光真清  
中公文庫

今から百年前、日本軍のスパイとなってシベリア南部、中国東北部で活動した青年の手記。ロシア人との交流、馬賊の首領との連携、大陸に渡った日本人たちとの交流などが、緊張した歴史的雰囲気の中で語られている。馬賊の首領の妻となって荒野を駆ける日本女性、また戦火の中で荒野をさまよう日本人女郎たちなど、ノンフィクションならではの面白さがある。興味深く読みながら世界史の流れを肌で感じ取れるお奨めの書。

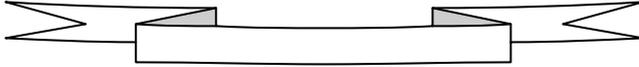


英文 石栗彩子

## 指輪物語

J.R.R.トールキン  
評論社文庫

中学生の頃、はまって何度も読んだ『指輪物語』が、『ロード・オブ・ザ・リング』(The Lord of the Rings)という邦題の映画としてこの春日本でも公開されます。一足先にアメリカで観てきましたが、特殊効果をうまく利用して物語の世界を再現しています。3部作で来年以降も連続公開される大作ですし、なにしろストーリーがおもしろく感動的なので、大人も子供も楽しめる作品です。映画から入ってもいいですが、原作を読むと何倍ものおもしろさを味わうことができるので、まだ読んだことのない方はぜひ手に取ってみることをおすすめします。本当は『ホビットの冒険』(岩波文庫)という児童文学の続編として書かれているので、そちらを読むと、なぜ主人公が指輪を手に入れるに至ったかがわかるのですが、『指輪物語』の方が何倍もスケールの大きな物語になっているので、より楽しめます。瀬田貞二さんの訳も引き込まれてしまうような独特の雰囲気があります。ちなみに作者のトールキンはイギリスの言語学者で、この作品のなかでユニークな古代言語を作り出しているのも興味深いところです。ファンタジーが好きな人にも、骨太のドラマや悲劇が好きな人にも、ディテールにこだわる人にもおすすめできる名作です。でもすでにファンって人が多いんでしょうね。



生活科学 坂口淳

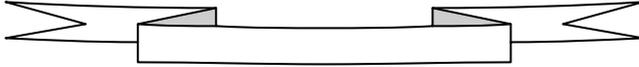
# やってみよう縄文人生活 課外授業ようこそ先輩 別冊

岡本道雄 NHK「課外授業ようこそ先輩」制作グループ  
KTC中央出版

縄文時代の人とはどのような生活をしていたか知っていますか？  
多くの遺跡の発掘から縄文時代の人々の暮らしが詳しく分かるよう  
になってきました。

現代の生活と縄文人の生活には共通な点と違っている点がありま  
す。

みなさん、この本を読んで新潟県出身の岡村道雄先生の課外授業を  
受けて、現代人の生活に欠けている点について少し考えてみませんか？



国際教養 水上則子

## 女たちのジハード

篠田節子  
集英社文庫

タイトルを見て敬遠してしまう人がいるかもしれませんが、「ジハード（聖戦）」と題されていても、イスラム教とは特に関係はありません。この物語の舞台は現代の日本で、私たちのすぐ隣にいそうな、なんだかみなさんの近い将来の姿を見るような、そんな女性たちが主人公です。そして、彼女たちが、時には健気に、時には狡猾に、時には流されながら、自分らしく生きる道を見つけようとする「戦い」が描かれているのです。みなさんの多くは、これから自分の行き方を探してゆくことになると思いますが、彼女たちの中の誰に一番共感しますか？

## ゲイルズバーグの春を愛す

ジャック・フィニイ  
ハヤカワ文庫

不思議な話、ちょっと怖い話など、10の短編が収められている本です。表題作もすてきですが、私が一番好きなのは、10番目の「愛の手紙」です。古道具屋で買った机の引出しから、古い手紙が出てくる - というのは、発端としてそれほど珍しいものではありませんが、主人公は、その手紙に返事を書きたくなくなってしまうのです。そして・・・というところは読んでのお楽しみ。

～読んでみました～

## アンダーグラウンド

村上春樹  
講談社文庫

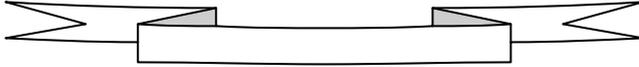
村上春樹の本は、かなり網羅的に読んでいるつもりですが、この本は小説でもエッセイでもなく、インタビューだということなので、敬遠していました。しかし、太田優子先生のご推薦（どこでもドアのかぎ4）を読んで、手にとってみました。文庫になってもずっしりと厚い本でしたが、読み始めたら途中でやめることができず、気がついたら読み終わっていた、という感じでした。かの「地下鉄サリン事件」についてのインタビューですが、いろいろな人々の視点から語られることによって、この未曾有の惨事の姿が改めて浮かび上がってくるだけでなく、たまたま被害者となり目撃者となった人々の人間像が鮮やかに描き出されていて、非常に読みごたえがありました。

～読んでみました～

## 二十歳のころ

立花隆  
新潮文庫

こちらもずっしりと厚い、しかも上下2冊のインタビューの本、ということで、同じく太田優子先生のご推薦を読まなかったら、開くこともなかったと思います。東大の授業（立花隆のゼミ）から生まれた本ということですが、有名・無名の多数の人々が20歳だった頃の話、ほぼ20歳くらいの学生たちがインタビューしてまとめる、という趣向なので、はたちに近いみなさんにとっては、二重の意味で興味深く読めると思います。また、インタビューが話し手の年齢の順に並んでいるので、舞台となる時代が過去から現代に向かって少しずつ進んでくることになって、まるで現代史がリレー式に語られているようでもあり、非常に面白いと思いました。



食物栄養 太田優子

# 世界がもし100人の村だったら

池田香代子 再話 C.ダグラス・スミス 対訳  
マガジンハウス

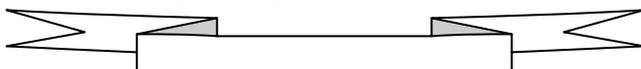
.....だからあなたは、  
深ぶかと歌ってください  
のびやかに踊ってください  
心をこめて生きてください  
たとえあなたが、傷ついても  
傷ついたことなどないかのように  
愛してください.....

インタ - ネット・フォ - クロア「ネットロア」で瞬く間に広がった  
メ - ルの再話と対訳それから興味深い池田香代子氏の解説そして英  
語版メ - ル・サンプルが掲載され、コンパクトながらも至れり尽せり  
の仕上がりといってよいでしょう（難を言えば装丁が ）。

自由時間の最も多い学生時代に、この本をきっかけに様々なことを  
考えたり、読んだり、話し合ったり、しなやかに行動してみたいか  
がでしょうか。

（ちなみにこの本は、夫が息子と娘のために求めたものです。）

～国際教養学科・基本のほん～



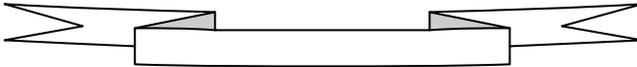
国際教養 高久由美

# 食の文化史

大塚 滋  
中公新書

皆さんは自分の食生活についてどれくらい関心をお持ちですか？  
普段何気なく口にしている食べ物にも、それにまつわる歴史や様々なエピソードがあります。「日本人はいつ頃から牛乳を飲むようになったのだろう」といった、何かを口にしたときに感じた素朴な疑問、それがこの本が生まれる原動力になっています。食べ物もまた、人間の歴史の中でゆっくりと、しかしときには激しく変化していく文化のひとつなのだ、ということを通してわかってもらえたら、と思います。

～ 国際教養学科・基本のほん～



国際教養 月出皎司

## 国際感覚ってなんだろう

渡部 淳

岩波ジュニア新書

私の読後感を紹介します。

題名は『国際感覚』だけど、内容のほとんどは「国際性」、つまり国際的なコミュニケーション能力のこと。たしかに日本人はとても苦手だ。学生だけでなく、政治家やテレビ・ジャーナリストでさえもね。

帰国子女教育の現場から拾った実例がたくさん書いてあって面白いね。とくに、第3章のディベート・ゲームなんか、できればやってみたい気がする。

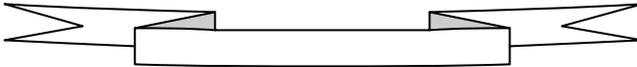
著者が言いたいのは、世界中の誰が相手でも自分の意見をはっきり主張できるようになれ、ということ。

そのためには、まず自分の考えをもてってこと。当然だよな、言いたいことがないなら、それで終わりだものね。ところが、けっこうないんだな、それが。

言いたいことができれば、次は議論の経験を積もうということ。日本人は同じアジア人である韓国人や中国人にくらべても議論下手だと言われてる。学校ではこの種の訓練をしないし、個人生活では、理路整然と相手を論破したりすると嫌われ者になるだけだし。ま、あまり必要がないからやってこなかったという面もあるよね。それに、日本語自体が議論向きにできていないことも不利だな。

最後の章がずばり国際感覚に触れている。環境問題などのグローバル・イシューを考える姿勢、地球市民的姿勢をもとと訴えている。賛成だな。ただ、この理屈で行くと、二酸化炭素排出規制に反対している米国政府はさしずめ国際感覚がない、ということになるのかも。だとするとちょっと変かな？ だって、ふつう国際感覚を磨こうという時には、言外にアメリカ人みたいに、という意味になっているでしょう？

～ 国際教養学科・基本のほん～



国際教養 水上則子

## 星の王子さま

サン・テグジュペリ  
岩波書店

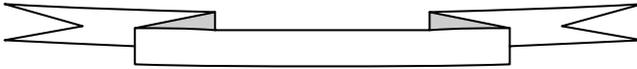
海を見るのは好きですか？

海の色は、いつも微妙に変わっていますね。また、水面には、たえず波が立っていますが、その形には、一つとして同じものはありません。海は、海であって変わらないのと同時に、常に変わり続けていて、まったく同じ姿を現すことは、二度とないのです。海を見ていると、時間を忘れてしまいます。見飽きるということがありません。

書物の中にも、このように、読むたびに姿を変えるものがあります。何度読んでも違った味わい方ができ、違った感動を与えてくれるのです。それは、海のような深さを持った本だから、と言えるかもしれません。

「星の王子さま」は、まさにそのような本の一つです。初めて読む人も、二度目・三度目の人も、よく味わって楽しんでください。

～国際教養学科・基本のほん～



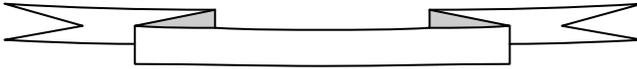
国際教養 石川伊織

## 糸ひもせす

杉浦日向子  
ちくま文庫

この作品集のなかでもとくに「吉良供養」を読んでみてください。そして大石内蔵助と吉良上野介のどちらに義があるのか、考えてください。遠い遠い大昔のことと考えずに、皆さんの生きている「今」とくらべてみることも忘れずに。たとえば、討ち入りが今度のアメリカとどう違って、どう同じなのか……とか。

～国際教養学科・基本のほん～



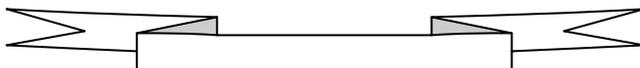
国際教養 堀江薫

## 権威と権力

なだいなだ  
岩波新書

権威と権力、判断停止、自我の確立、人間の尊厳・・・みな古くて新しい問題です。例えば、教育って何？と聞かれると、困ることもあります。我々「センセイ」のやっていることは、「自発的にいうことをきかせる」ことかもしれないし、「無理にいうことをきかせる」ことかもしれないし。親も、先輩も、政治家も、課長さんも、監督さんも、反省すべきことは多いだろうな。では、君たち「学生さん」は、権威や権力と無縁なのか？ちゃんと、自分のことは自分で決めていますか？身近な例を思い浮かべながら、苦笑しタメイキをつきつつ読んで、いろいろ考えてください。あとで、きっと役に立つはずですよ。

～ 国際教養学科・基本のほん～



国際教養 水上則子

## 遠い朝の本たち

須賀 敦子  
ちくま文庫

本との出会いは、人と出会うことと似ています。偶然出会った赤の他人が、時にかげえのない友人となるように、読み手であるあなたと、読まれる本との間で、波長がぴたりと合ったとき、その本はきっと、あなたを支えたり慰めたりする、大切な存在になってくれます。

いろんな人と知り合わなければ、またいろんな本を手にとらなければ、そういう出会いをすることはむずかしいでしょう。この半年間に読んでもらった6冊の本が、ずばり「親友」になれなくても、これからの出会いのきっかけを作ってくれるものになるといいのですが。

この本は、数え切れないほどの「親友」を持っていた人の作品です。ここでは、その親友たちの一部が紹介されているのですが、中身もさることながら、ぜひ味わってほしいのは、著者の文章の美しさです。本との間に深い友情があると、このように言葉を使えるようになるものか、と感嘆するばかりです。

「どこでもドアのかぎ6」アンケートのお願い

どこでもドアのかぎ・第6集の  
ご感想はいかがでしょう。

以下のアンケートにご記入の上、生協店舗の  
「一言カードボックス」に入れてください。  
抽選で50名の方に、500円分の図書券を  
差し上げます。

**締切 5月31日(金)**

「どこでもドアのかぎ6」全体についてのご感想・ご意見を書いて  
ください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

この冊子を見て読みたくなった本があったら教えてください。でき  
れば理由もお願いします。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

